

行事の意義を考える 季節の行事「端午の節供」

第113号 2019年4月29日発行

ミマモルジュ挨拶

ホテルに宿泊客の様々な相談や
ご要望に応えるコンシェルジュがいる
ように、保育においても様々な
ご要望や悩みがあると思います。

「見守る」+「コンシェルジュ」=
ミマモルジュとして、保育に関する
ご要望にお応えしていけるよう
活動していきます。

株式会社カガヤ 奥山卓矢

4月の室礼



端午の室礼の想い（作：宮前 奈々子）

兜：カガヤ起業時に顧問弁護士の方から頂いた兜。

災から身を守っていただけると祈りを込めて。

小麦：宮前家の畑（悠々農園）で採れた小麦。

まっすぐのびた小麦の姿に重ね、子どもたちも逞しく

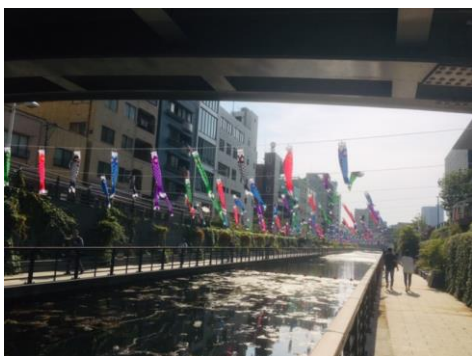
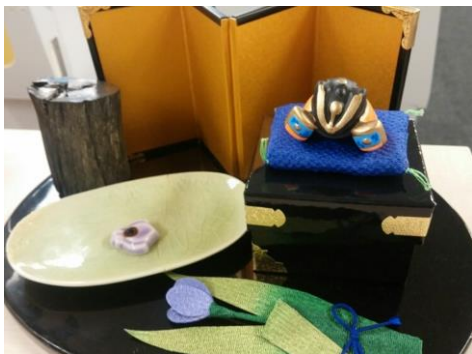
まっすぐに成長していくよう。

色紙：立派な男性に育つように願いを込めて。

五節供の一つ、端午の節供は、中国から伝わった行事で三月のひな祭りが
女の子の節供であるのに対し五月五日は男の子の節供とされています。

月の最初の午（うま）の日を「端午」と言い、邪気を払う節目の日として、
五月五日をとくに重んじていたため、端午が五月に限られるようになった
ようです。





端午の節供を振り返って思うこと

我が家の子どもの日のことを振り返ってみると、一軒家だった実家には、2階まで届く支柱が立てられ鯉のぼりが泳いでいました。

兄と二人の男兄弟で、家の中には3段くらいの段を組み立て、五月人形や弓矢・刀の置物などを手伝って並べた思い出があります。

そして、家族揃って買ってきた柏餅を食べる。子どもの頃が当たり前な毎年の光景のように思っていたのですが、今改めて思い返してみると、祖父母や両親の想いを受けて大きく育ったことを感じます。

中学生くらいでしょうか？この頃位から5月人形や鯉のぼりを実家で見なくなりましたが、私以上に両親の方が何か思うところがあったかもしれません。

いつも室礼のインタビューをさせて頂いている宮前さんが通われている室礼教室の先生は、「先生が教えた通りではなくて、自分のおばあちゃんやお母さんが伝えてくれた家庭内文化、その家庭で育まれたものを大事に優先して欲しい」と言われると以前教えて頂きました。

毎回、室礼のインタビューをさせて頂く度に「行事とは何だろうか？」と考える機会を頂いていましたが、今回は自分自身の子どもの頃を振り返ってみると、懐かしい思い出が蘇り、じわーっと温かな気持ちが湧いてきました。

いつもインタビューを聞きながら「あ～そうなんだ、そうなんだ」と行事の意義深さを感じていましたが、今回自分の時どうだったかな？と思い出すと、これまでとはまた違うものを感じました。毎回感じるのですが、行事とは何か？そのことを考えさせられます。

●過去のバックナンバー

第110号

『聴福庵』を支える職人道具

第111号

むかしの田んぼ

第112号

『21世紀型保育のススメ』

<http://www.caguya.co.jp/topics/news/p9889/>



〒161-0023

東京都新宿区西新宿 3-2-11 新宿三井ビルディング 2 号館 10 階

Tel:03-5909-7155

毎週月曜日に配信しています。

ミマモルジュメールマガジン発行：株式会社カグヤ 奥山卓矢

ミマモルジュメールマガジン



メールマガジンのご登録は、
QRコードからお願いします。